

キャラクター名  
日向崎弥生

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー エンジェルハイロウ		ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	UGNエージェント
	オプション		年齢	24	性別	♀
覚醒	生誕	衝動	自傷	初期侵食率	36	%
出自	義理の両親	経験	純粋培養	邂逅	秘密	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	1	0	2			3	行動値	14
感覚	5	1	0			6	(非装備時)	14
精神	2	0	0			2	戦闘移動	19
社会	0	0	1			1	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
大型拳銃	射撃	6r-1	0	5		
静かなる一撃	射撃	8r+2	0	5+10+9+1D		コスト9、攻撃24+1D、HP消費1点
静かなる一撃@100	射撃	9r+2	0	5+12+12+1D		コスト9、攻撃29+1D、HP消費1点

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
大型拳銃	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
亜純種	P	N		
(昇華) "荒御魂" 伊比津美摘	P 信頼	N 無関心		
長月慶	P 遺志	N 不安		
(昇華) 病院の子供達	P 庇護	N 不安		
四葉	P 遺志	N 悔悟		
(昇華) 晴英	P 庇護	N 不安		
シロタ	P 連帯感	N 悔悟		

最大財産P: 4    残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
★サイドリール	1							
効果: 達成値+3、ダメージ+1D								
コンセントレイト:エンジェルハイロウ	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果: C値を-LV								
滅びの一矢(5)	3	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果: 攻撃ダイス+LV+1、HP2点消費								
小さな塵(5)	5	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果: 攻撃力+LV*2								
スピットファイア(5)	3	3	Xジャー	武器	単体	対決	リミット	
効果: 攻撃力+LV*3、判定ダイス-2個								
紅の王(-)	1	-	常時	至近	自身	自動	ピリア	
効果: 亜純種で取得。消費HPを-LV。基本侵蝕+3。								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「協力はある。でもそれは任務だから。それ以外では話し掛けないで」

ひゅうがさき やよい  
私/君、あなた。口数は少なめで、淡々とした話し方をする。

一匹狼が必要なこと以外は話そうともしない、ドライなエージェント。自分が必要だと感じれば行動に移すが、それ以外には難色を示しがち。とはいえ命令には忠実で、出された指令にはむっとしながらも従っている。ここにしか、UGNにしか、居場所がないのだ。

数年前までは親しい相棒とコンビを組んでいたが、彼は任務の最中にジャームとなって行方知れずとなっている。それ以降はコンビを組まず、チームを組まれる時以外は単独で動くことが多くなった。

-----  
N/ハンドアウト  
PC① ワークス/カヴァー UGNエージェント/指定なし  
ロイス "荒御魂(あらみたま)"伊比津美摘(いびつ みつみ) 推奨感情 P信頼/N指定なし  
小佐古支部からはみ出した患者を收容したり、未だに高頻度で発生するジャーム化の処理に向かったり……  
君の所属する武上(たけがみ)支部は空前の人手不足となっている。  
優秀なエリートエージェントであるキミはその異様さを強く感じ取っていた。  
普段は虫も殺さない温厚な彼女さえ、もう一つの人格【戦闘用人格】を露にするほどに激昂していた。